

千年以上にも渡り地域の農業用水や生活用水として利用され、豊饒の地を潤してきた

# 水疏堰村六ヶ山



# 村山六ヶ村堰疏水(むらやまろっかむらせぎそすい)

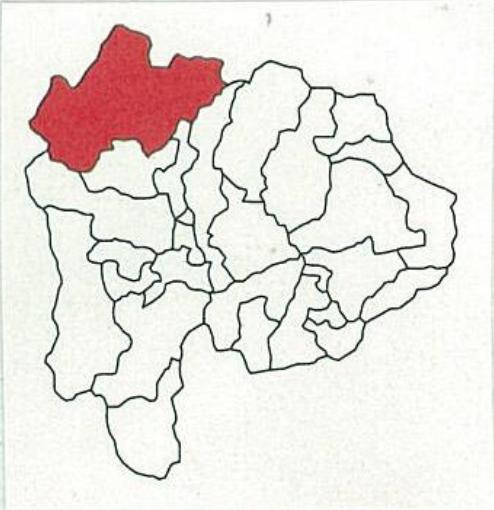
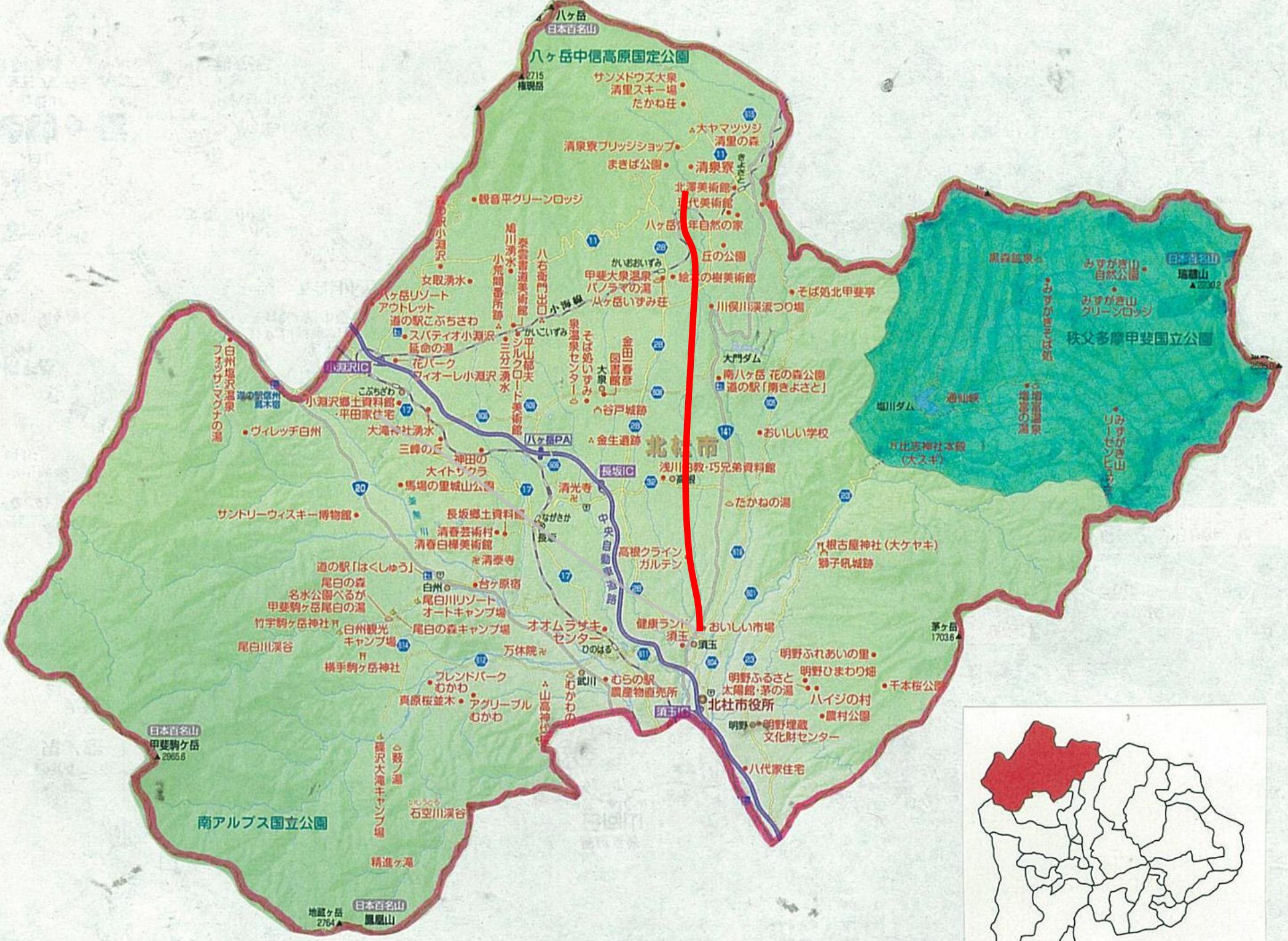
村山六ヶ村堰疏水は、山梨県の最北端、八ヶ岳南麓にあって、年平均気温11℃、降水量約1,150mmと雨や河川が少なく農業条件の厳しい傾斜地の農地のかんがいと生活用水の確保のため、西暦900年頃から1,000年頃にかけて開削されたとされている。標高1,000～600mに広がる農地約550haと集落を潤す、約16kmの水利施設である。水源を標高1,200m程に位置する泥淤湧水、千条の滝など湧水群と吐竜の滝に求め、取水工、素彫り隋道、水路橋で谷山を超え、階段工や等高線に即して山腹をぬうように開削した空石積み水路に加え、配水管理のための分水工などの施設からなる。地域の生活において村山六ヶ村堰疏水は欠かせない存在であり、堰の普請(工事)が失敗に終わった結果、当時の語普請役奉行は割腹して謝罪したとされている。

1,700年代には、現在にも通ずる30集落分の取水や普請(維持補修)、水年貢(賦課金)、人夫(管理人)等の取り決めが記録され、旧6ヶ村が合同で行う「堰さらい」や用水安全を祈願する「水神祭」など集落としての行事を含め、現在の農業水利や集落形成の骨格ともなる体系が既に整えられていたことを伺わせる。

現在、村山六ヶ村堰疏水は、農業用水を主に、生活用水、小水力発電用水としても活用されている。古来からの水稻栽培は勿論、1,970年代～1,980年代には、「高根のトマト」を中心とした高原野菜の生産拡大に貢献し、当時、農業所得の飛躍的な向上をもたらした。乾燥気候の当地において、家屋の建築、集落の拡大にあたっては、防火用水の確保が大きな課題となる。集落が発展する度に上流の集落へ分水を依頼し、賦課金や管理負担の拠出といった交渉を通じて実現した。今なお、下流の集落が上流の集落が管理する水路の草刈を行うことが取り決められ、人々は先祖代々の申し伝えとして淡々と作業をしている地域もある。また、農作業後の機材や日常生活の備品の洗浄などにも活用されている。

長い歴史を持つこの堰が農業振興のための保全管理、共同作業、文化的価値、水棲生物など生態系豊かな水路として、平成18年2月、農林水産省より全国の疏水百選にも認定されている。

# 山梨県北杜市村山六ヶ村堰疏水位位置図



# 「村山六ヶ村堰疏水」の主な施設



どりゅうのたき  
吐竜の滝



ひがしざわとりいれ  
東沢取り入れ



ひがしざわすいもん  
東沢水門



にしざわすいどうぐち  
西沢隧道出口



かいたんすいる  
階段水路



しぜんがたすいる  
自然型水路



きゅうすいる  
旧水路



川子石公園